

種目（国語）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">東京書籍（新しい国語1～3）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活における様々な場面で適切に使うことを念頭において、各単元で習得すべき知識及び技能が明確に示されている。 ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を通して思考力、判断力、表現力等を育成する教材が配列されている。 ・ 生徒の言葉への興味・関心を喚起する多様な言語活動が位置付けられていて、主体的に学びに誘うよう工夫されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各単元に「言葉の力」として育成する資質・能力が明示されていて、学年が進んで単元を重ねていく中で学習が発展的になるよう配慮されている。 (2) 生徒の発達の段階に即して、身近な社会生活の場面を描いた「学びの扉」が単元の導入に設けられたり、多種多様な教材文がバランス良く配列されたり配慮されている。 (3) 日本語の決まりや特徴を扱う「日本語探検」、インターネットを通して音声や映像などの資料につながる「Dマークコンテンツ」で生徒を主体的・対話的な学習へ誘うよう工夫されている。 (4) 「国語1」冒頭に配列されている教材本文や「国語1～3」を通して新出漢字の文字が大きく示されていたり、「文法解説」の色やマーク情報を加えたりすることなど、適切に工夫されている。 (5) 「国語1～3」共通の生徒と案内人のキャラクターが登場して、思考や判断のポイントを示したり、キャラクター間で対話したりして、全ての生徒が学びやすいよう配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 系統立てて設定された「言葉の力」に適した教材や言語活動が位置付いていて、段階的に指導できるよう単元が配列されている。 (2) 同領域の単元の連続性が位置付いていることに加えて、異なる領域の単元においても「読むこと」から「書くこと」などの単元相互の関連が有効に図られている。 (3) 「書くこと」「話すこと・聞くこと」の単元の流れが、思考・判断のポイントと合わせて示されていて、言葉による見方・考え方を働かせながら言語活動が行われるよう配慮されている。 (4) 「広がる言葉」「言葉を広げよう」「他教科で学ぶ漢字」などを活用することで、各領域の学習に取り組みながら語彙を豊かにし、漢字を使い慣れるための手立てが示されている。 (5) 古典の見開き資料、「文法解説」など、生徒が個に応じた学習に取り組む際に有効に活用できるよう配慮されている。 (6) 「言葉の力」によって育成する力が明示されており、単元末に示される「振り返り」で更なる対話を生徒に促すことでまとめや評価が教師・生徒にとって明確になるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な学びにつながるように、生徒に寄り添って興味・関心を喚起し、学び方について明確に示されている。 ・ 「言葉の力」「学びを支える言葉の力」など、教師・生徒ともに各単元で育成する力を明確にできるよう工夫されている。

種目（国語）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">三省堂（現代の国語 1～3）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字、音声言語それぞれの分野、形態を網羅した教材配列で、それらに応じた知識及び技能が習得できるように構成されている。 ・ 各教材に対して、多岐にわたる言語活動が設定されており、思考力、判断力、表現力等の育成が意図されている。 ・ 読み方及び思考の方法、各教材における学習過程などの例示により、生徒の主体的な学びを喚起するよう工夫されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全学年とも、ほぼ同時期に同分野の教材が難易度に配慮して配列されていて、育成する資質・能力を螺旋状に積み上げられるよう構成が工夫されている。 (2) 名作や古典から現代の作品、歌謡曲の歌詞まで幅広い内容や分野を取り上げており、日常の話題や同年代の人物を主人公とした物語など、生徒の学習意欲を喚起するよう配慮されている。 (3) 学習過程を例示する中で、様々な思考の観点や手段を挙げるとともに言語活動例が示されており、考え方や学び方を獲得しやすいよう配慮されている。 (4) 作品本文の文章は明朝体、新出漢字などは教科書体、見出しなどはゴシック体で統一され、1頁は最大で21行以内に収められており、字体や行間が視覚的に配慮されている。 (5) イラストや強調のデザインにおいては、原色を避けた配色となっており、教科書上段は本文、下段は言語に関する情報を掲載するなど整理されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全学年で各分野、領域を同程度の内容量で網羅しており、螺旋的な学習の積み重ねができるよう配慮されている。 (2) 領域を総合させた単元や「読み方を学ぼう」という系統性をもたせた教材があり、学習した内容を定着させ、次に生かせるよう教材が配置されている。 (3) 一領域に重点を置いた教材の中でも、他領域の活動を学習手段に例示して追究を促すなど、様々な言語活動を学習に取り入れられるよう工夫されている。 (4) 学習過程の例示の中に、語彙を広げるものや思考の方法を獲得するような紹介欄が設けられ、知識・技能が各領域と関連付けられるよう工夫されている。 (5) 文学的文章ではさし絵、説明的文章では写真や図表が用いられ、内容把握の手助けや思考のきっかけになるよう配置されている。 (6) 教材の標題の下部に単元としての学習目標が明記され、学習過程の例示においても同じ文言をキーワードとして示し、評価の観点を明確にさせ、振り返りがしやすいよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習過程を例示することで、学習者が追究のイメージをもちやすいよう配慮されている。 ・ どの教材にも単元や教材の学習目標が明示されており、生徒、教師ともに振り返りや評価がしやすいよう工夫されている。

種目（国語）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">教育出版（伝え合う言葉 中学国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「言葉の小窓」「文法の小窓」では、日常生活の具体的場面を想定して言葉の知識及び技能が身に付けられるようになっている。 ・ 単元の冒頭に「学びナビ」が位置付けられ、思考力、判断力、表現力等の身に付け方や、活用の仕方が示されている。 ・ 社会や世界に目を向け、獲得した学びをどう人生や社会に生かしていくかを考えることができる教材が取り入れられている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の日常生活や言語生活に応じ、小学校の復習や高等学校へのつながりが意識されている題材配列で、学習が進むにつれて、文章量が多くなり、抽象的な概念を表す言葉も増えている。 (2) 親しみやすく読みやすい文学教材から、SDGsの視点で取り入れられた現代社会の課題に対して考えさせられるような教材まで、多種多様な教材が各学年、バランス良く配置されている。 (3) 「学びナビ」で「目標」「学習の流れ」「みちしるべ」「振り返り」が明確に位置付けられ、学習の見通しをもち、主体的・対話的で、自覚的な学びを促すことができるよう工夫されている。 (4) ユニバーサルデザインの視点から、独自の明朝体やUDフォント、教科書体が用いられているのに加えて、1年では2・3年に比べ、文字が大きく、行間が広がっている。 (5) 写真やさし絵、図表を用いて生徒の興味を喚起するとともに、色覚の特性を考慮した色や形にも配慮され、文章を読み進めたり、内容理解を深めたりできるよう工夫されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が、基礎から発展的内容へと、既習を踏まえて段階的に力が身に付くよう構成されている。 (2) 話題、知識や内容、技能の点で、関連性や連続性をもたせ、「習得」と「活用」を螺旋的にくり返しながらか、学びを積み重ねていけるような教材化が図られている。 (3) 「目標」「学習活動の流れ」「読みの観点」が明示されていることで、言葉による見方・考え方を働かせて、主体的に学び、考える力を身に付けられるよう配慮されている。 (4) 文章や話の内容を的確に「読み」、「聞き」、「理解する」ために必要な基礎的・基本的な知識及び技能が明確に示され、3領域との関連性と系統性が図られている。 (5) どの単元、分野においても、生徒の読解を助け、想像を膨らませられるようなさし絵や写真、図表が取り上げられている。 (6) 単元ごとに「振り返り」が位置付けられており、「振り返り」の観点が明確に示されていることで、学習の目標に照らした自己評価を促すよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元冒頭の「学びナビ」で学習の重点や観点を把握でき、見通しをもつこと、主体的な取り組み、深い学びにつながられる。 ・ SDGsを取り入れた題材や問いが設定され、社会とのつながりを踏まえて国語の力を育めるよう配慮されている。

種目（国語）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">光村図書（国語 1～3）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活に生かす国語の力を育成するために、情報の扱いやその関係を学習できるよう工夫されている。 ・ 言語活動が組み込まれた学習過程が提示されていて、対話を通して思考力や想像力を養えるよう工夫されている。 ・ 身近な言語文化に関わる題材を多く扱い、言語感覚を豊かにし、社会生活で生かせるよう配慮されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教材は、生徒の発達段階に応じて段階的かつ系統的に配置され、特定の時期に偏ることのないよう、各領域は軽重を付けながら配置されるなど、バランスが良くなるよう工夫されている。 (2) はじめは身近な題材から、徐々に生き方や広く社会に関わる題材へ、生徒の言語環境と発達段階に応じて、幅広い分野から題材を求め、学習意欲が喚起されるよう工夫されている。 (3) 日常生活に関連したり、知的好奇心を喚起したりするような問いを基にした言語活動が設定されており、主体的・対話的な学習が促されるよう工夫されている。 (4) 発達段階に応じて字詰めや行詰りを狭めたり、手書き文字に近いフォントを使ったりするなど、生徒の可読性を考慮し、学習上の支障とならないよう工夫されている。 (5) 「学習」では「目標」「学習過程」「振り返り」という学習の流れが一覧でき、見通しがもてるように工夫され、図表は色だけに頼ることなく作成されていて、色覚特性に配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の発達段階に合わせて、系統的に学習ができるようにバランス良く教材が配置されている。 (2) 単元の本教材後に、本教材で学んだ内容を活用する教材が設けられていて、生徒が思考力、判断力、表現力等の力を、実践を通して高められるよう配慮されている。 (3) 単元の終わりに、自分の言葉で表現をする学習が示されていて、言葉による見方・考え方を働かせて文章を理解し、適切に表現する力を付けることができるよう工夫されている。 (4) 「学習の窓」が各単元展開中に位置付けられていて、それを手がかりに教師と生徒が見通しをもちながら学びを深めることができるよう工夫されている。 (5) 情報整理の仕方や思考の方法などを図で説明していて、視覚的な資料を用いて指導することができるよう配慮されている。 (6) 単元ごとの振り返りが具体項目で設定されているため、各教材の目標と重ねて、付ける力を意識しながら学習し、学習後には自己評価をして次の学習につなげられるよう配慮されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの教材において「学習」が設けられており、見通しをもつことで、主体的に学習を進められるよう配慮されている。 ・ 教科書の随所に Web コンテンツが記載され、教科書の内容と連動したコンテンツを閲覧できるよう配慮されている。